

木津川市文化協会 第1回 講演会

日時 平成27年5月10日(日) 午後1:00~2:30

場所 木津川市中央交流会館(いずみホール)

演題 「吉田松陰と明治維新」～松陰の「志」を継ぐ人々～

講師 西田 毅(たけし)先生 同志社大学名誉教授 政治思想史専攻
(講師プロフィール)

1936年生まれ 1962年同志社大学法学部助手就任、講師、助教授を経て、1974年に教授、
1988年法学部長、1997年北京日本学研究中心客員教授、2007年同志社大学名誉教授

吉田松陰(1830~1859)とはいかなる人物か

・時代によって変わる松陰像 ・徳富蘆花『謀叛論』における松陰イメージ ・昭和初期の松陰像(山口県教育会編纂『吉田松陰全集』) ・河上肇と吉田松陰 ・戦後日本と吉田松陰 ・忌避された国粹主義、「大和魂」、軍国主義 ・大学紛争時(1968~69)の松陰研究書 河上徹太郎と奈良本辰也 ・人間松陰の「硬」(剛)と「軟」(柔)

歴史家徳富蘇峰(1863~1957)の見た吉田松陰

・わが国初の本格的な伝記『吉田松陰』(明治26年)、本書は松陰を中心に見た幕末維新革命前史論、時代状況と多くの人々の関わりが叙述の中心、「革命家としての松陰」像を作り上げる、蘇峰における松陰と新島襄、新島は「第二の吉田松陰」、「洗礼を受けた吉田松陰」

松陰と旅 一旅の経験が視野の拡大と思想の形成に役立つ一

・嘉永三年の九州、平戸、肥後の旅、横井小楠、肥後実学党の知己を得る ・嘉永四年の江戸留学、佐久間象山との出会い、東北旅行の試み、水戸、白川を経て会津に入り、越後から佐渡、出羽の国から仙台、米沢を経て再び会津、そして日光から江戸に至る大旅行 水戸の碩学会沢正志齋らに会って尊王攘夷論と国体の尊厳を深める嘉永六年の芸州、四国、畿内を経て伊賀から伊勢に入り、諸国の名士と会う、中山道を通って江戸に到着、ここでペリーの来航を知り浦賀に直行 嘉永六年、長崎から密航を企てるが失敗、翌安政元年三月、下田沖に停泊中の米軍艦に再度、乗り込まんとして失敗、江戸伝馬町の獄に繋がれる 自藩幽閉に処せられ、萩野山獄に入るそこで囚人たちに『孟子』の講義を行う * 密航の意図は何か * なぜ孟子を教えたのか

教育者としての松陰 一松下村塾の教育実践一

・「学問即事業、事業即学問」・教育道場としての松下村塾、「徳川政府転覆の卵を孵化したる保育場」、「維新革命の天火を燃したる聖壇の一なり」(徳富蘇峰) ・教育方法の特徴 ・何をどのように教育したのか、「君臣之義」、「華夷之弁」、尊王精神の大切さと攘夷の実行を説き、質実、義勇、斃れて後已むの精神を以て、「君臣一体」、「忠孝一致」を実行する意義(『士規七則』) ・インスピレーション(靈感、感動・感激、鼓舞激励)を与える松陰 「人に接するや全心挙げて接す、彼の人を愛するや全力を挙げて愛す」(蘇峰) 絶大な感化力 ・教育者としての松陰は未完成、学問も深くない

志を継ぐ人々 一国士型の塾生、思想的には分岐一

・久坂玄瑞、高杉晋作、前原一誠、伊藤博文、山縣有朋、品川弥二郎、入江九一ら